

## 第 24 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 4. 1 相原美穂

### 『トラバタンズ点眼液 0. 004%』

日本アルコン（株）丹羽 智昭和さん

場所： コンパス薬局藤沢

参加者： 眼科職員さん 熊山ともみ 相原美穂

緑内障治療の目的は視機能の維持であり、視野欠損の進行をいかに抑えるかにある。眼圧下降を維持することが唯一確実な治療法とされており、治療は薬物が主体となる。

今回は、緑内障・高眼圧治療剤のプロスタグランジンF2 $\alpha$ 誘導体トラバタンズについて勉強会をおこなった。

#### <眼圧の日内変動>

眼圧は正常人でも日内変動があり、眼圧が一番高くなる時間帯には個人差がある。多くが午前10時~12時にピーク（1日の眼圧の最高値）を迎えるとされるが、人によってピークになる時間帯はそれぞれである。

緑内障患者さんのうち、病院受診時間内にピークがみられるのは全体の6割と言われており、残り4割は実際ピークの値を見るのが難しいと推測される。

また、受診時間帯が異なれば眼圧値の差が出るとも考えられる。

#### <眼圧の変動幅と進行リスク>

1日の眼圧変動の変動幅(最高値と最低値の幅)は平均4.4mmHgであるが、大きい人になると6mmHgを超える場合があり、患者さんの42.1%はこれに当てはまる。

疫学調査で、変動幅の大きさが視野障害進行のリスクになる事がわかっている。変動幅が3mmHg以内の人に比べると、変動幅が5.4mmHgを超える人の進行リスクは5.76倍になる。

また、眼圧は低い値であっても変動幅が大きいと視野障害の進行が早くなる。

## <トラバタンズ点眼液について>

### ・用法：1回1滴、1日1回

通常、1日1回の点眼後12時間で効果がピークに達する。その後の眼圧効果減弱をいかに小さく抑えられるかが薬の持続力の強さになる。

トラバタンズは24時間にわたる良好な眼圧下降効果があり、他剤に比べて効果減弱を緩やかに抑えられる。

### ・作用機序

トラバタンズの薬効成分であるトラボプロスト遊離酸は、FP受容体に対するフルアゴニストである。その活性により、房水排泄を促し眼圧低下作用を発揮する。

### ・主な副作用

眼の充血、眼周囲の多毛化、眼瞼色素沈着、虹彩色素沈着

### ・製剤特徴

防腐剤としてイオン緩衝系保存システム「sofZia」を採用している。

保存効力のメカニズムは、イオン化された亜鉛が細菌や真菌のエネルギー産生を抑制することで殺菌作用を示す。

点眼薬の防腐剤としてよく用いられるベンザルコニウム塩化物（界面活性剤）に比べて眼球表面への刺激が小さい。

## <考察>

眼圧の日内変動の観点から、1日1回の緑内障点眼液を処方されている患者さんには、医師から時間指定を受けている場合は必ず守るように指導することが必要である。また、受診時間帯と日内変動の関係は、薬局では分かり難い患者さんの状態推測に少し生かせるのではないかと感じた。

副作用の1つである充血はプロスタグランジン製剤を初めて使った人に、主に初期症状として現れやすい。他の副作用が出ていなければ継続可能であること、継続することでほとんどが消失することを、不安からくる自己中断を避ける為あらかじめ投薬時にお伝えしておきたい。

## <Q & A>

Q：1日1回の用法指示だが、2回、3回と多く使うと効果は高まるか？

A：1回以上使うことで、むしろ治療効果が得られなくなる。